

水産・環境科学総合研究科 博士後期課程 環境海洋資源学専攻の教育理念・目標

21世紀は食料と環境の世紀といわれるように、国際的に自然・環境保全と生産・開発との調和が求められ、社会、企業および行政はいずれも食料生産と環境の持続性を基本に据えています。このような社会的要請に応えるため、水産・環境科学総合研究科は「水産科学、環境科学および両者を融合させた学際的・総合的分野の教育研究を推進することにより、環境や食料等の問題解決に貢献する実践的指導力を持つ高度専門職業人並びに国際性の高い研究者等の人材を養成し、環境と調和した人類の生存を実現するための新たな学際科学の創出と発展に資する」ことを基本理念として掲げています。水産食料の供給と環境保全を学問的ミッションとする水産科学と環境科学は、ともに人間と自然との共存・共生を志向しており、対象とする課題やその解決のための方法にも共通性が高く、学際融合が必要かつ極めて効果的な教育研究領域です。

本研究科博士後期課程環境海洋資源学専攻では、地域の課題解決に貢献するとともに、国際社会への対応力にも優れた水産科学、環境科学および両者を融合させた学際分野の実践的な研究者を養成します。

本専攻には以下の2つのコースがあります。

「水産科学コース」では、海洋食料資源を安全かつ高度に利用し適正に管理する新たな知識や技術を修得させます。

「環境科学コース」では、環境問題の解決および環境と共生する持続可能な社会の構築に貢献する幅広い専門知識を修得させます。

この教育目標を達成すべく、以下に掲げる3つのポリシーに基づいた博士後期課程教育を行います。

水産・環境科学総合研究科 博士後期課程 環境海洋資源学専攻のディプロマ・ポリシー

所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を修得し、

- ・博士前期課程で修得した専門的知識基盤の上に立って、水産科学コースにあっては海洋食料資源を安全かつ高度に利用し適正に管理するための、環境科学コースにあっては環境と調和した持続型社会の構築に貢献するための、より高度な専門的知識・技術と総合性を身につけている。
- ・水産科学、環境科学、もしくは、両者が融合する学際的・総合的分野における実践的指導者・研究者として、地域や現場、国際社会で活動する能力を身につけている。

と認められ、博士論文が学位論文審査基準*を満たした者に対し、博士（学術）、博士（水産学）、又は博士（環境科学）の学位を授与します。

*学位審査基準

博士学位論文は、水産科学、環境科学、および、両者を融合させた学際的・総合的分野に関連する内容で、独創性、新規性、普遍性、論証性などの高い学術的価値が含まれ、かつ、学術論文として論理的にまとめられた完成度の高い論文でなければならない。学位論文審査を申請する者は、それに加えて論文審査を終了するまでに以下の基準を満たしていなければならない。

- 1) 博士後期課程修了に必要な本研究科授業科目の単位修得が見込めること。
- 2) 本研究科のディプロマ・ポリシーに定められるように、修得した各分野における専門的な知識基盤の上に立って、より高度の専門性と総合性を身につけ国際社会への対応力にも優れた実践的指導者・研究者として自立して研究活動を行う能力、およびその基盤となる学識を有することを示す客観的な資料（公表論文）があること。
- 3) 2) の客観的な資料（公表論文）は以下の要件を満たすこと。①課程修了認定のための学位論文の内容に含まれる公表論文は、主内容が審査制度の確立された学術雑誌に1編掲載された（掲載が決定された）ものがあり、さらに掲載された、あるいは掲載されると判断される論文が1編以上あるものとする。②上記公表論文は、原則として博士後期課程在籍期間内の公表とする。

上記公表論文数は学位論文審査における必要条件である。そのため、学位論文審査においては、当該公表論文の性質、内容や執筆経緯、学位論文との適合性を含めて総合的に評価するものとする。それに加え、学位論文本体の完成度の高さと学術的価値が求められる。予備審査を終了し、公開形式の論文発表会を行うとともに、学位審査委員会、博士後期課程・博士課程委員会、研究科教授会において博士の学位にふさわしいものと認められる必要がある。

水産・環境科学総合研究科 博士後期課程 環境海洋資源学専攻のカリキュラム・ポリシー

- ・分野横断型の講義と演習，実学的経験を重視した関連施設における実習・国際海洋実習を必修科目とすることにより，実践的指導者・研究者として必要な幅広い観点からの問題解決能力や国際性を養います。

学修の到達度は，レポートやプレゼンテーション，ディスカッションを通じて評価します。

- ・専門科目では，海洋環境・資源，漁業生産，生物機能，物質科学，食品化学，環境共生政策，資源循環，環境保全技術等の多様で幅広い学問分野の学識を高めます。また，他研究機関の研究者による連携講座専門科目を設け，地域や現場における諸問題を学び，研究の実践能力を高める力を養います。

学修の到達度は，レポートやプレゼンテーション，ディスカッションを通じて評価します。

- ・複数の教員による研究指導を受けることにより，多様な観点から，実践的指導者・研究者としての活動に必要な能力を学びます。

評価は，学位論文の審査ならびに最終試験によって行われます。

科目に関する別表（環境海洋資源学専攻）

科目等		必修科目	専門科目（水産科学コース）	専門科目（環境科学コース）
資質等	幅広い観点からの 問題解決能力	特別講義 特別演習	インターンシップ	インターンシップ
	国際的素養	学外実習		
	主として養われる資質 専門的知識・技能		水産経営管理学 海洋測位学 漁業生産システム設計学 漁船船型学特論 海洋生態システム論 海洋システム解析学 水産資源社会学 漁船漁法工学 海洋生物流体力学特論 海洋環境流体力学 深海生物環境学特論 沿岸底生生態学 海洋浮遊生物学 水族情報学 水圏生物環境学特論 魚類生態学特論 海洋微生物生態学 水産無脊椎動物学特論 生体高分子化学 海洋生物環境学 栽培漁業論 細胞機能生化学 海洋生物生体防御論 海洋生物工学特論 生理活性物質化学特論 水族内分泌学 海洋植物資源学Ⅰ 海洋植物資源学Ⅱ 高分子機能生化学特論 海洋生物汚損対策特論 水族病理学 生体関連物質化学特論 生物栄養化学特論 水産衛生化学 分子細胞生物学 応用生体分子機能論 水族毒性学 水産食品化学 海洋生物栄養学 生物機能生化学 （連携講座科目） サング礁生態系保全学 亜熱帯海洋動物分布生態学 生元素循環学 海洋資源生物学 水産資源動態学 水産統計学	環境地下水学特論 環境物理学特論 地域環境計測学特論 堆積岩地球環境解析学特論 大気環境学特論 地震・火山学特論 エネルギー資源学特論 微量環境分析化学特論 生殖生理学特論 環境生物化学特論 環境化学特論 グリーンケミストリー特論 環境毒性学特論 植物生態学特論 陸域生物環境学特論 環境適応学特論 環境生理学特論 保全生態学特論 放射線生物物理学特論 動物生態学特論 環境哲学特論 環境思想学特論 環境人類学特論 複合文化環境特論 環境民俗学特論 人間生活環境学特論 共生持続社会学特論 環境政策学特論 環境経済学特論 環境社会学特論 環境マネジメント学特論 地域環境政策学特論 環境リスク政策学特論 環境資源経済学特論 環境観光学特論 環境計画学特論 森林環境学特論 地域計画学特論 国際環境政策学特論 地域社会学特論 環境法学特論
研究の計画立案・ 遂行・結果解析・ プレゼンテーション・ 論文作成、科学的態度	（研究指導）			

水産・環境科学総合研究科 博士後期課程 環境海洋資源学専攻のアドミッション・ポリシー

環境海洋資源学専攻は入学者に以下の資質・素養を求めます。

- ・水産科学，環境科学，両者が融合する学際的・総合的分野において，地域や現場，国際社会で課題の解決にあたる実践的指導者・研究者を目指す意欲があること。面接(口頭試問を含む)において評価します。
- ・水産科学コース入学者には，海洋食料資源を安全かつ高度に利用し適正に管理する新たな知識や技術の修得に取り組む意欲があること，また，環境科学コース入学者には，環境問題の解決及び環境と共生する持続可能な社会の構築に貢献する幅広い専門知識の修得に取り組む意欲があること。面接(口頭試問を含む)において評価します。
- ・コースに関連する科学並びに英語力について修士修了レベルの知識と学力並びに語学運用力を持つこと。筆記試験(専門科目及び英語)又は面接(口頭試問を含む)により評価します。

選抜方法に関する別表(求める素質等の評価方法とその比重(特に大きい比重：◎，大きい比重：○))

求める資質等		実践的指導者・研究者を目指す意欲	関連分野の知識・技能の獲得に対する意欲	関連分野の基礎知識と学力	英語運用力
一般入試	面接(口頭試問を含む)	○	○	○	○
	書類審査			○	
	筆記試験(専門科目)			○	
	筆記試験(英語)				○
社会人入試 外国人留学生 入試	面接(口頭試問を含む)	○	○	○	○
	書類審査			○	
進学者選考	面接(口頭試問を含む)	○	○	○	○
	書類審査			○	
	筆記試験(専門科目)			○	
	筆記試験(英語)				○